

令和7年度事業実施報告

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

令和7年度の協会運営は、令和7年の定時社員総会で承認された事業計画と予算に則り、公益社団法人として、代表理事会長・理事副会長のもと理事会の執行機関として8つの「委員会」を設置し、各「委員会」ごとに責任を持って事業を推進し、全体を調整する機関として「総括運営委員会」を置き、当協会の理念に基づき、多岐にわたる協会の事業を具体的に効率よく実施し、予算内の収支で行いました。

A. 公益目的事業の実施状況

1. 日本写真協会賞の令和7年表彰及び令和8年選考 【表彰委員会】

○令和7年表彰式、展示会の実施

- ・日本写真協会賞の規程について、表彰の種類・対象者数を見直しました。見落とされがちな地域の写真文化向上に貢献した個人・団体を顕彰するために「文化振興賞」を新設するとともに、国際賞はノミネート数が減少傾向にあることを受け、その機能を「文化振興賞」に一本化しました。また、従来は各賞でバラバラであった各賞の対象者数を原則1名または1団体以内としました(令和6年6月17日 令和6年度第2回通常理事会にて承認)。
- ・令和7年日本写真協会賞は、我が国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人・団体をはじめ、前年に優れた作品・評論を発表された方々の中から令和7年2月20日に各賞の受賞者を選出し、3月25日理事会で決定し、3月31日にカメラ記者クラブ・関係諸機関・一般紙報道機関や公共機関にニュースリリースを配布して、对外発表しました。その後、6月2日に表彰式ならびに受賞者祝賀パーティーをJA共済ビルカンファレンスホール(東京)で行いました。また5月30日～6月5日の期間で、受賞作品展を富士フィルムフォトサロン東京(六本木)で開催しました。

○選考委員 (敬称略、五十音順)

板見浩史(フォトエディター)、今森光彦(写真家)、上田義彦(写真家)、太田菜穂子(キュレーター)、小原真史(キュレーター、東京工芸大学准教授)

○令和7年受賞者 (敬称略)

☆作家賞： 露口啓二
☆新人賞： 青木弘
☆功労賞： 中谷吉隆
☆文化振興賞： 大西暢夫
☆学芸賞： 該当なし

○令和8年受賞者の選考

- ・令和8年日本写真協会賞の選考は、恣意的な選考に陥らないよう、会員及びノミネーターから昨年末までに候補者の資料を広く収集し、令和8年2月17日、5名の選考委員による「選考会」を開催し、作家賞1名、新人賞1名、功労賞1名、文化振興賞1名、学芸賞1名、写真展を内定致しました。
- これを令和8年3月24日に理事会で承認決定し、3月31日に对外発表しました。

○選考委員 (敬称略、五十音順)

石川直樹(写真家)、太田菜穂子(キュレーター)、小原真史(キュレーター、東京工芸大学准教授)、今道子(写真家)、ハービー・山口(写真家)

○令和8年受賞者及び受賞理由 (敬称略、五十音順)

☆作家賞： 井津 建郎

井津建郎氏が聖地を撮影した作品には強い存在感と美しさを感じられる。14×20インチの大判カメラでプラチナプリントの作品に作り上げるのは容易なことではない。写真集『もののあはれ・無常の美』

(2025 年、ナツラエリ・プレス) では、三部作(幽玄 寂び 詫び)として能面・神威・野花などの日本の美をモノクロの陰翳と柔和で繊細なプラチナプリントで表現した。氏はカンボジアに小児病院を設立するなど社会貢献活動にも尽くしてきた。これらの功績に対して。

☆新人賞： 水島 貴大

水島貴大氏の写真展「環島回憶録」は、2020 年から延べ5 年間に渡り台湾全土を撮影した成果だ。

「環島」とは台湾を周回する旅の道をさし、この旅を経て初めて台湾に生きる一人と認められると言う。台湾に自らの居場所を作り、その土地に染み付いた歴史や人々の息吹を活写し、偶然を味方に、予定調和に反した写真展に結実させた。作家が今後いかなる方向に進み、どんな景色を見せてくれるのか、期待を込めて。

☆功労賞： 空蓮房

浄土宗伝授山長應院住職の谷口昌良氏はアメリカで写真を学び、帰国後は写真コレクターとして歴大な作品と写真集を蒐集し、境内に2006 年、ギャラリー「空蓮房」を開設して数多の鑑賞者に特別な写真体験を長年にわたり提供してきた。東日本大震災を契機に、氏はそれらの蒐集品をサンフランシスコ近代美術館、東京国立近代美術館に惜しみなく寄贈し、日本のみならず国際的な写真文化の継承・発展に貢献した。この功労に対して。

☆文化振興賞： クリスティーネ・フリシングリー

クリスティーネ・フリシングリー氏は、キュレーターとして、1970 年代に他に先駆け数多くの日本の現代写真家をヨーロッパに紹介した。1980 年からは写真雑誌『カメラ・オーストリア・インターナショナル』を写真家・キュレーターのマンフレッド・ウィルマン氏、写真家の古屋誠一氏とともにオーストリアのグラーツで創刊し、2010 年まで編集長を務めた。ヨーロッパにおける日本の写真文化の紹介・啓蒙に果たした多大な功績に対して。

☆学芸賞： 被爆80 年企画展 ヒロシマ 1945

「被爆80 年企画展 ヒロシマ 1945」は、中国新聞をはじめとする新聞社・通信社の記者らが原爆関連写真の撮影者・撮影時期・撮影場所はもとより写された被爆者に至るまでを同定する綿密な調査と資料保存を元に、報道5 社が連携して開催された。原爆投下という未曾有の事態に遭遇した被爆者・記録者と、その記録を守った人々の生を前景化しようという強い意思が感じられ、人びとの記憶に残る写真展だ。この功績に対して。

2. 「東京写真月間 2025」の開催と「大阪写真月間 2025」への協賛 【写真月間委員会】

1. 事業名 「東京写真月間 2025」(The Month of Photography, Tokyo 2025)
2. 主 催 「東京写真月間 2025」実行委員会／公益社団法人 日本写真協会
3. 共 催 東京都写真美術館
4. 後 援 外務省、環境省、駐日モンゴル大使館
5. 事業開催期間：2025 年 5 月 20 日～2025 年 12 月 9 日
6. 事業開催場所：ニコンプラザ東京 THE GALLERY、キヤノンオープンギャラリー1、2
OM SYSTEM GALLERY、富士フイルムフォトサロン東京 スペース 1
ソニーイメージングギャラリー、ピクトリコショップ&ギャラリー
LUMIX BASE TOKYO、新宿ヒルトピアアートスクエア ギャラリーABC
半蔵門ミュージアム

【巡回展開催場所】

長崎県美術館県民ギャラリーB	2025 年 7 月 8 日～7 月 13 日
福島市写真美術館	2025 年 9 月 13 日～9 月 23 日
ワキタギャラリー	2025 年 10 月 3 日～10 月 8 日
「写真の町」東川町文化ギャラリー	2025 年 11 月 24 日～12 月 9 日

7. 実施概要

2025 年は、国内企画展 SDGs シリーズ vol.4 として「写真の力で伝えよう SDGs」と、国際展として 2016 年以来親交を深めているモンゴル国を取り上げ「アジアの写真家たちモンゴル 2025」を開催しました。また、第21回公募「写真の日」記念写真展・2025を開催しました。

12 月 9 日に東川町文化ギャラリーでの巡回展が終了し、「東京写真月間 2025」のすべての事業を滞りなく終えることが出来ました。なお、新宿ヒルトピアアートスクエア、福島市写真美術館、東川町文化ギャラリーでは「写真の日」記念写真展・2025 とピックアップしたモンゴル展を展示、さらに新宿ヒルトピアアートスクエアと長崎県美術館県民ギャラリーでは国内企画展の一部、東川町文化ギャラリーでは国内企画展全作品を展示しました。

6 月 2 日に JA 共済ビル カンファレンスホールにおいて、日本写真協会賞表彰式及び「東京写真月間 2025」オープニングセレモニーを開催しました。

1) 国内企画展

国内企画展は、継続テーマとして「写真の力で考えよう 未来に希望を」をキャッチフレーズに、SDGs(2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標)を意識した写真展を開催しました。本年も「写真の力で伝えよう SDGs」をテーマに会員を対象とした公募形式で作品を募集しました。お陰様でこの企画は大変好評をいただいております、環境問題・環境保全などについての様々な取り組みを表現する作品を多数ご応募いただきました。その中から実行委員会と関係者による選考の結果 7 名の出展者が選出され、6 会場で写真展が開催され、その後巡回展でも展示しました。何れも多面的な切り口で「SDGs」についての取り組みを表現した写真展でした。

高村 達「Re Flowers」

会場：キヤノンオープンギャラリー1 5 月 20 日～6 月 23 日

武田憲幸「身近な小さな生き物たち 2 一命の営み」

会場：OM SYSTEM GALLERY 6 月 5 日～6 月 16 日

吉里演子「きせき ぐうぜん あるいはまばたき」

会場：ニコンプラザ東京 THE GALLERY 6 月 3 日～6 月 16 日

ハガタカシ「ヘテロタイプ」

会場：LUMIX BASE TOKYO 5 月 28 日～6 月 29 日

松村 明「閃光の長崎」

会場：ピクトリコショップ&ギャラリー 6 月 17 日～6 月 21 日

ブルース・オズボーン「NATURE CALLS」

廣瀬泰成「廃墟の中の再生」

会場：ヒルトピアアートスクエア ギャラリーC 7 月 3 日～8 日

2) 国際展

東京写真月間 30 周年記念として、国際展は 2016 年に開催して以来親交のあるモンゴル国を再び取り上げて「アジアの写真家たちモンゴル 2025」展を開催しました。設立 5 周年を迎える Mongolian Landscape Photographers Society との共催による 17 名とモンゴル写真家協会 4 名の写真家の展示を都内 7 会場

(キヤノンオープンギャラリー2、ニコンプラザ東京 THE GALLERY、OM SYASTEM GALLERY、ソニーイメージングギャラリー、LUMIX BASE TOKYO、半蔵門ミュージアム、ヒルトピアアートスクエア)で開催しました。

なお、福島市写真美術館、「写真の町」東川町文化ギャラリーではピックアップした作品を展示しました。

6 月 2 日の「写真の日」オープニングセレモニーに 2 名の招聘を含め作家 10 名が出席、会期中にさらに 3 名の作家が来日され交流を図りました。

■キヤノンオープンギャラリー2 5 月 20 日～6 月 23 日

Amartuvshin Jargalsaikhan, Erdenebulgan Battengel, Munkhchuluun Erdenedoo,
Baatarzorigt Purevkhuu, Jigmed Bayarmagnai

■LUMIX BASE TOKYO 5月28日～6月29日

Tamir Sandagsuren

■ニコンプラザ東京 THE GALLERY 6月3日～6月16日

Bayar Balgantseren

■OM SYASTEM GALLERY 6月5日～6月16日

Oktyabri Dash, Ganbayar Erdenebaatar

■ソニーイメージングギャラリー 6月6日～6月12日

Batsukh Gantumur, Itgel Chuluunbatar, Gan-ulzii Gonchig, Natsagdorj Sanj, Tumursukh Shiirav

■半蔵門ミュージアム 6月11日～8月31日

Batbaatar Tserendorj, Badamkhand Sodnom, Nyamgerel Baljinnyam

■ヒルトピアアートスクエアギャラリーB 7月3日～7月8日

Buyan-Erdene Togoontumur, Regzen Tumurbaatar, Munkhtulga Batchuluun, Zolboo Khishgsuren

3) 第21回公募「写真の日」記念写真展・2025

「感動発信！感動共有！」をキャッチフレーズに掲げ、今年も公募による「写真の日」記念写真展・2025を開催しました。2025年より「世界水の日」賞を新設しました。作品のテーマは、「自由」。風景、花、旅、家族、動物、行事、スポーツ、スナップなど、全国553人の方々から、多彩な分野の作品1,372点のご応募をいただきました。

選考委員：浅岡 恵、中島慶三、小池友美

展示内容：環境大臣賞1点、外務大臣賞1点 「国際女性の日」賞1点、「SDGs」賞1点、
「世界水の日」賞1点、優秀賞15点、協賛会社賞42点、入選65点 合計127点

特別協賛：YUKI TORII

協賛会社：23社

阿智村(長野県)、OM デジタルソリューションズ(株)、LUMIX BASE TOKYO

キヤノンマーケティングジャパン(株)、サンディスク(株)、ジェットグラフ(株)

グローバルソリューションサービス(株) イストテクニカルサービス部、「写真の町」東川町、

ソニーマーケティング(株)、大豊和紙工業(株)/伊勢和紙、(株)デューク、

(株)ニコソイメージングジャパン、(株)風景写真出版/風景写真、(株)日本写真企画/フォトコン、

ハクバ写真産業(株)、(株)クレヴィス、富士フイルムイメージングシステムズ(株)、

マルマン(株)/キヤンソン、(株)山田屋写真用品、三菱王子紙販売(株)、

(株)ワン・パブリッシング/CAPA、タイ国政府観光庁、リスト・ハンガリー文化センター

会 場：新宿ヒルトピアアートスクエアギャラリーAB 7月3日～8日

巡回展：福島市写真美術館 9月14日～9月23日

ワキタギャラリー(名古屋) 10月3日～10月8日

「写真の町」東川町文化ギャラリー 11月24日～12月9日

4) 2025年日本写真協会賞受賞作品展

会場：富士フイルムフォトサロン 東京 5月30日～6月5日

展示作品 作家賞：露口啓二、新人賞：青木弘、功労賞：中谷吉隆、文化振興賞：大西暢夫

5) その他

●「日本写真協会賞表彰式」「東京写真月間オープニングセレモニー」

「写真の日の集い」が6月2日、東京千代田区のJA共済ビル カンファレンスホールで開催され、冒頭に

2025年日本写真協会賞表彰式が挙行されました。続いて、叙勲・褒章祝賀会並びに東京写真月間オープニングセレモニーが行われました。その後、盛大な祝賀パーティーがありました。

●共催・後援・協力事業

① 第6回親子写真まつり「親子の数だけ親子物語」

国内外の写真家から寄せられた親子写真を一堂に集めて展示しました。

主催：親子の日普及推進委員会

会場：日本外国特派員協会（FCCJ）

会期：7月1日～8月4日

協力：「東京写真月間2025」実行委員会

② 第10回 HIGASIKAWA 高校生国際交流写真フェスティバル

2015年に北海道「写真の町」東川町が、未来に向かって均衡ある適疎な町づくりを目指すことを目的とし、写真文化の中心として、写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う高校生同士が会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和へ繋げるため始められたフェスティバル。東川町と交流のある国・地域から、テーマに沿った作品(組写真)を募集し、国・地域ごとに実施される作品審査を通過した選抜校が東川町に招聘され、写真を通じた交流にて友情の輪を広げました。

主催：高校生国際交流写真フェスティバル実行委員会

会期：8月19日～23日

後援：外務省 / 一般財団法人自治体国際化協会 / 駐札幌大韓民国総領事館 / タイ王国大使館 /

駐日ウズベキスタン共和国大使館 / 在日カナダ大使館 / 駐日ラトビア共和国大使館 /

在札幌米国総領事館 / 在日ミャンマー連邦共和国大使館 / 駐日コロンビア共和国大使館 /

駐日アイルランド大使館 / 台北駐日経済文化代表処札幌分処 / 北海道 /

公益社団法人全国高等学校文化連盟 / 北海道高等学校文化連盟 / 高等学校文化連盟全国写真専門部 /

キャノンマーケティングジャパン株式会社 / ウェスタンデジタル合同会社 EIZO 株式会社

協賛：近畿日本ツーリスト株式会社旭川支店

協力：「東京写真月間2025」実行委員会、HJK 株式会社

●図録

「東京写真月間2025」を総括した図録を制作して、ご協力頂いた関係機関に配布するとともに、関係各国大使館等の公共機関にも無料提供しました。また、「写真の日」記念写真展入賞者等購入を希望する写真愛好家には、一冊2,000円で頒布しました。

*1000人の写真展「わたしのこの一枚」は中止しました。

○「大阪写真月間2025」を共催 (450,000円を協賛)

大阪の写真文化向上を目指す「大阪写真月間」は今年で24年目を迎え、下記内容の写真展等を実施しました。

- 1) 写真家150人の一坪展 5月20日～7月9日 4会場 参加122名
キャノンギャラリー大阪、富士フイルムフォトサロン 大阪、αプラザ(大阪)ギャラリースペース、
ニコンプラザ大阪 THE GALLERY
- 2) 大阪写真月間ハイスクールフォトアワード2025
7月5日～7月18日 αプラザ(大阪)ギャラリースペース 参加42校 285作品
日本写真協会会長賞を設定：帝塚山学院中学校高等学校 金野理子氏に授与
- 3) 写真展「私のこの一枚」 6月25日～6月30日 イロリ村[89]画廊 308作品
- 4) 子供たちのための写真講座「親子で挑戦! デジタルピンホール写真」
7月12日 ニコンプラザ大阪セミナールーム 親子6組18名
- 5) 記念講演会「写真家 井津建郎氏」
6月14日 大阪府立中之島図書館 別館2階多目的スペース3 参加60名

3. 国際交流活動 【写真月間委員会】

- (1) 国際展「アジアの写真家たちモンゴル 2025」を開催しました。
(※内容は、東京写真月間 2025 国際展の項目に掲載)
- (2) 日本写真協会賞新人賞受賞作品を海外に紹介
ウクライナなど世界に緊張状況が続いている中で、海外からのオファーも無い状況が続いています。

4. 写真・映像教育の推進 【写真・映像教育推進委員会】

平成 18 年 3 月にスタートした写真・映像教育の推進事業は、子供達に写真の楽しさ、面白さなど感動と親しみを体験してもらうことを目的に、「ピンホール写真体験教室」ならびに「デジタル写真体験教室」を実施しています。令和 7 年度は前年度に引き続き、採算性も配慮しながら、各学校・教師等からの実施要望に応じて実施しました。

令和 7 年度実施状況

令和 7 年度トータルとしては、21 ヶ所、608 名が参加しました。

「ピンホール写真体験教室」：10 ヶ所 参加人数 430 名

「デジタル写真体験教室」：11 ヶ所 参加人数 178 名

■令和 7 度 写真体験教室実施状況

	会場・主催者	内容	開催日	対象	参加人数
1	多摩六都科学館	デジタル	5/24	小・中学生	21
2	岐阜県富加町	ピンホール	7/ 5	小学生・保護者	20
3	大田区立中萩中小学校 PTA	デジタル	7/12	小・中学生・大人	13
4	聖光学院中学・高等学校	ピンホール	7/17、18	中・高校生	57
5	酒田市土門拳記念館	ピンホール	7/26、27	小学生・保護者	46
6	国立市観光まちづくり協会（協力）	デジタル	7/27	小学生	15
7	大田区立出雲小学校	デジタル	7/29	小学生	10
8	神奈川県立大船フラワーセンター	ピンホール	8/ 1、2	小学生・保護者	64
9	(株) プチバトージャパン サマースクール	ピンホール	8/10、11	小学生	38
10	名古屋市科学館	ピンホール	8/22、23、24	小学生・保護者	120
11	中野区立江古田区民活動センター	ピンホール	8/30	小学生・保護者	23
12	和光市南公民館	ピンホール	9/23	幼～大人	13
13	平塚市立金旭中学校 *	ピンホール	10/ 8	中学 1～3 年生	32
14	和光市南公民館	デジタル	10/18	小学生	8
15	横浜市立公田小学校 *	ピンホール	10/27	小学 4～6 年生	17
16	八王子やさいフェス（協力）	デジタル	11/ 3	小学生	17
17	立川市石田倉庫アトリエ（協力）	デジタル	12/ 6	小・中学生	20
18	聖光学院中学・高等学校	デジタル	12/17、18	中・高校生	26
19	海老名市立東柏ヶ谷小学校	デジタル	12/19	小学 6 年生	20
20	中野区立江古田区民活動センター	デジタル	3/ 1	小学生・大人	10
21	藤沢市立御所見市民センター	デジタル	3/ 7	小学生	18

*(地独) 神奈川県立産業技術総合研究所(KISTEC)から派遣

1) ピンホール写真体験教室

写真の歴史、ものの映るしくみ等を説明し、各自ピンホールカメラを組み立て、光の性質を理解しながら銀塩方式の写真体験をしてもらいました。東京、神奈川など首都圏の教育支援事業としてスタートしましたが、写真・映像教育への関心は着実に広がりを見せています。首都圏以外では、岐阜県富加町、酒田市土門拳記念館および名古屋市科学館で教室を実施しました。

2) デジタル写真体験教室

写真の原理はもちろんですが、物事をよく観察することの大切さや、写真の持つ多様な力の中から自分の

気持を表す自己表現力・コミュニケーション力をいかに引き出すかに重点を置いて実施しました。併せて、断りもなく他人の顔を写さない、花壇等に勝手に踏み込まない等の撮影マナーや、著作権・肖像権等の法的権利についてもその重要性を学んでももらいました。

5. 年報・図録等の発行 【出版広報委員会】・【写真月間委員会】

1) 年報

「不特定多数の利益の増進に寄与する公益事業」として認定された『日本写真年報』は、2013 年版より『日本写真年鑑』と題し、従来の写真業界の年報としての機能に合わせ、年間を通じた写真界の幅広い情報を掲載してまいりましたが、2021 年版からは時代に即した内容精査を行い、従来の写真業界の年報としての機能に重点化し『日本写真年報』として新たに発行することとしました。2025 年版もこの方針の下、12 月に発行しました。なお配布・頒布については、会員の皆様をはじめとして関心の高い一般市民写真愛好家の為に、写真美術館・ギャラリー・図書館等の公的機関等に無料配布してまいりましたが、印刷経費並びに発送費等が高騰している影響により、今年度から有料頒布に変更しました。

2) 東京写真月間図録

「東京写真月間」の開催にあたって、事業内容を集約した図録を製作・頒布しました。

B. 共益事業の実施状況

1. 会報の発行【出版広報委員会】

令和 7 年度は、事業計画では年 2 回、12 月(秋・489 号)・3 月(春・490 号)を発行し、各時点における協会及び会員の活動や今後の計画、写真文化情報などを紹介する予定でしたが、春号に「写真の日」集いの案内状を同封することとなり、490 号の発行を 3 月から 5 月に変更しました。また、6 月には東京写真月間 2025 図録を全会員・賛助団体に郵送しました。

・主要掲載記事

489 号：「2025 年日本写真協会賞表彰式」「東京写真月間 2025」「ピンホール写真体験教室」他

2. 日本写真協会賞受賞祝賀会 兼 叙勲・褒章受章祝賀会 兼 東京写真月間レセプションの開催【総務委員会】

令和 7 年度は、「6 月 1 日写真の日」事業として、6 月 2 日に JA 共済ビルカンファレンスホールにて「日本写真協会賞受賞祝賀会」兼「叙勲・褒章受章祝賀会」兼「東京写真月間レセプション」を開催しました。会員・賛助会員・関係者など多くの方が参加して頂き、協会ならではの交流の場となり賑わいました。

C. 法人運営事業の実施状況

1. 公的機関が主催する写真コンテスト・イベント等への協力【総務委員会】・【写真月間委員会】

公益社団法人移行後、公的機関からの写真コンテスト・イベント等の相談及び協力依頼に対応しています。

1) 第 41 回「東川町国際写真フェスティバル」へ協力

北海道東川町主催の第 41 回「東川町国際写真フェスティバル」(7 月 29 日～9 月 1 日)を後援しました。

2) 第 5 回「無電柱化の日」フォトコンテストへ協力

東京都主催の「無電柱化の日」フォトコンテスト(応募:6 月 27 日～10 月 1 日、表彰式:11 月 10 日)に後援し、審査員を紹介(当協会会員 高村達氏、小川知子氏)するとともに、フォトコンテスト告知に協力しました。

3) 総務省より、統計局発行書籍の掲載写真へ協力

総務省統計局発行「世界の統計 2025」の表紙に、当協会会員・大日向達也氏の写真(スペイン・バルセロナのガウディ建築)が採用されました。

2. 社員総会・理事会・総括運営委員会の開催 【総務委員会】

4月25日の第1回通常理事会において、令和6年度事業報告、貸借対照表および損益計算書の承認、定時社員総会開催内容を決定しました。

6月17日に令和7年度定時社員総会を開催、議決権者1,272名、議決権行使720名（出席26名を含む）で令和6年度事業報告、令和7年度事業計画・予算を報告、令和6年度決算、役員任期満了に伴う改選、役員報酬総額を決定。総会終了後、第2回通常理事会を開催しました。

令和8年3月24日に第3回通常理事会を開催。令和8年度事業計画・予算を承認しました。

また、5月20日、7月15日、9月16日、11月18日、1月20日、3月17日の計6回、事業報告及び財務状況を代表理事会長、理事副会長に各委員会委員長が報告する総括運営委員会を開催しました。

3. コンプライアンス 【コンプライアンス委員会】

令和8年3月6日 コンプライアンス委員会を開催（村田業務執行理事、松本理事副会長、庄業務執行理事）し、令和7年度の公益事業に関し、適切な運営ができたかを点検しました。また、パワーハラスメント防止措置として運用しているコンプライアンス・ヘルプラインの状況につき確認を行いました。

4. 永年会員表彰の実施 【総務委員会】

令和5年度に創設した、個人正会員に対する永年会員表彰制度に基づき、協会の継続在籍年数10年・20年・30年の対象者に記念品（ピンバッジ）を贈呈しました。令和7年度は、継続在籍年数10年57名・20年37名・30年3名の方を表彰しました。

5. 新規入会促進「1+ONE キャンペーン」の実施 【総務委員会】

「1+ONE キャンペーン」と銘打って、会員の方から友人・知人に入会を薦めて頂き、その友人・知人が入会頂いた場合、会員の方に記念品をプレゼントするキャンペーンを実施しました（実施期間：令和7年1月1日～12月31日）。各会員から多大なご支援・ご協力をいただき。おかげさまで新規会員数は昨年を上回る実績をおさめることができました。「1+ONE キャンペーン」は、引き続き1年間延長してR8年12月31日まで行いますので、会員の皆さまには、この機にぜひ友人・知人の方をご紹介頂きたく、よろしくお願い致します。

6. 展覧会等の後援 【総務委員会】

当協会は公的機関や学校教育機関、マスコミ、写真関係団体等が主催し、内容が文化、教育、国際交流に寄与する写真展等に対して後援・協賛・協力を行っていますが、令和7年度は以下の催事をバックアップしました。

	申請者（≠主催者）	写真展名	会期・場所
1	日本写真家連盟	第38回『四季の彩り』展	2026年2月12日～19日東京都美術館、 「大阪展」3月13日～19日富士フイルム フォトサロン大阪
2	日本写真学会/日本フォトイメージング協会	PHOTONEXT2025 技術アカデミー 【協力】	6月11日パシフィコ横浜
3	日本山岳写真協会	日本山岳写真協会展「2025-山・われらをめぐる世界」	9月9日～9月17日 東京都美術館
4	(公財)セディア財団	生きもの写真リトルリーグ	募集：5月10日～6月10日／展示：7月 21日～8月18日小諸高原美術館
5	東川町写真の町実行委員会	第41回東川国際写真フェスティバル【後援・顧問】	7月29日～9月1日北海道東川町町内一円
6	(一社)東京都民間保育協会	第8回「TOKYO 保育フォトコンテスト」「TOKYO 保育フォト展」	11月16日～18日新宿駅西ロイイベントコーナーB1
7	(公社)日本広告写真家協会	第16回「全国学校図工・美術写真公募展」	募集：7月10日～11月10日
8	(一社)日本現代写真家協会	JMPA 第6回インターネットフォト	11月1日～12月10日 JMPA 第6回インタ

	申請者（≠主催者）	写真展名	会期・場所
		コンテスト【後援・会長賞】	一ネットフォトコンテスト専用サイト
8	(一社)日本光画会	第60回日本光画会写真展	11月18日～2026年4月16日大阪市美術館 他巡回展
10	「にっぽん一大使たちの視線」写真展 実行委員会	にっぽん一大使たちの視線2025写真展	10月1日～11月東京、沖縄、神戸、横浜、東川など
11	軽井沢フォトフェスト実行委員会／ 軽井沢町	軽井沢フォトフェスト2026-2029 『軽井沢レガシーを紡ぐ』	2026年5月1日～5月31日、2027年、 2028年、2029年 軽井沢町各所
12	主催：(株)プロメディア 主催団体：日本フォトイメージング 協会・(一社)日本写真映像用品工業 会	PHOTONEXT2026【協力】	2026年6月16日～6月17日パシフィコ横浜
13	日本写真学会/日本フォトイメージン グ協会	PHOTONEXT2026 技術アカデミー 【協力】	6月17日パシフィコ横浜
14	(一社)日本写真文化協会	第72回全国展フォトコンテスト	2026年5月28日～6月4日東京都美術館
15	(公財)セディア財団	生きもの写真リトルリーグ2026	7月下旬～8月下旬 小諸市立小諸高原美 術館
16	フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭フォトシティ さがみはら2026	4月1日～2026年3月31日相模原市民ギ ャラリー他
17	阿智村	第29回熊谷元一写真賞コンクール	4月～9月25日熊谷元一写真童画館内
18	土門拳写真美術館	ピンホールカメラ体験教室【協 力】	7月27日酒田市総合文化センター
18	土門拳写真美術館	第20回写真展「わたしのこの一 枚」【協力】	10月31日～11月14日土門拳記念館
20	福島市振興公社	江口敬写真展「二つの部屋」【協 力】	9月11日～9月29日福島市写真美術館
21	(一社)カメラ映像機器工業会	CP+(シーピープラス)2026【協力】	2026年2月26日～3月1日パシフィコ横 浜
22	(一社)日本カメラ財団	沢田教一・一ノ瀬泰造展【協力】	9月30日～2026年2月1日 日本カメラ博 物館
23	(一社)日本カメラ財団	沢田教一写真展【協力】	9月30日～10月26日 JCII フォトサロン
24	(一社)日本カメラ財団	一ノ瀬泰造写真展【協力】	10月28日～11月30日 JCII フォトサロン
25	苗場山麓ジオパーク振興協議会	苗場山麓ジオパーク10周年記念展 「瞬間(とき)の移ろい-天空の楽園 苗場山・秘境秋山郷マタギの里-」	12月6日～12月15日長野県立美術館

D. 法人の運営体制の充実を図るための取り組み

1. 公益法人内部における規範

- ・「個人情報管理規程」の制定・運用により会員など多くの個人情報を扱う組織としてのリスク管理に努めている。

2. 法人運営における具体的取り組み

- ・顧問社労士事務所との定例打合せにより、労務面での協会運営の適正性並びに法令遵守に関し、指導助言を受けている。

3. 不祥事の予防・発見・事後対応の仕組み

- ・「公益通報者保護規程」の制定・運用および内部通報窓口（ヘルプライン）の設置により、法令違反・不正行為による不祥事の防止に努めている。

- ・業務執行理事を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、事案発生時への対応に関する体制を整備している。また、同委員会を年1回開催し、コンプライアンス関連の法令改正への対応等の検討を行っている。
- ・ハラスメント防止に向け、ハラスメント相談窓口（ヘルプライン）の設置により、予防と対応の体制を整備している。

附 属 明 細 書

該当事項がないため、記載を省略しております。

以上